



TITLE:

<大會抄録>『蒙古源流』と他のモンゴル年代記との関係について

AUTHOR(S):

森川, 哲雄

CITATION:

森川, 哲雄. <大會抄録>『蒙古源流』と他のモンゴル年代記との関係について. 東洋史研究 2000, 59(3): 502-502

ISSUE DATE:

2000-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/155348>

RIGHT:

『蒙古源流』と他のモンゴル年代記との
關係について

森川 哲雄

『蒙古源流』は一七世紀後半に編纂されたモンゴル年代記の一つである。きわめて豊富な内容を持ち、とりわけ明代から清代にかけてのモンゴル史研究の重要な史料となっていることは周知の通りである。『蒙古源流』についてはすでに多方面から多くの研究が行われているが、まだまだ不明な點が多い。その一つはサガン・セチェン自身が利用した史料をめぐる問題である。モンゴル年代記には珍しく彼は七つの史料の名前を明記しているが、これら彼が利用した史料が現存する史料のどれに當たるかについて、すでに多くの研究がなされ、一部は解明されている。しかしながら一部については大きな誤解もあるようである。他方『蒙古源流』はその後に編纂されたモンゴル年代記の編纂にも大きな影響を與えている。本報告ではこの點について『蒙古源流』が『アルタン・トブチ』、『シラ・トゥージ』や『チンギス・ハーンのアルタン・トブチ』、『アサラクチ史』その他のモンゴル年代記とどのような關係にあるのかについて検討し、モンゴル年代記の史料の價値の問題にもふれてみたい。

中國近代における商會制度の特質について

——兩大戰間期華南の商會を中心として——

陳 來 幸

近年商會研究は相當な進展を見ているが、こと華南地區の研究は僅少で、國民政府以降の時期に言及した研究も少ない。本報告では廣州總商會が廣州市商會へと變貌を遂げた経緯を跡付けたうえで、國民政府と市商會との關係および華南地區の商會の特徵について分析する。

北伐の起點であつた廣東はもともと早く國民黨の「商民運動」の洗禮を受け、商人組織は廣東政府と國民黨の方針に終始左右され續けた。ここで誕生した「商民協會」は北伐の進展とともに、新しい商人團體（市商會）へと統合される一方、「革命的商民」の精神は國產品の奨励とその愛用運動の方向へと繼承された。一九二八年と三〇年代初期の廣州總（市）商會の會議録と收支記録によつてこの時期の總商會の機能を點檢する。

一方、東北、華北、長江下流地區との比較において、海外華僑との窓口機關として機能したことを、華南地域の商會の特色として指摘したい。清朝末期、華僑送出機關として廈門に設けられた「保商局」は、廈門商務總會の設立の際にその中に組み入れられた経緯がある。廣州總商會自身の會務報告も、この點を自商會の特徵としている。商事公斷（仲裁）、調査・勸業、など各地商會共通の役割と並び、華僑と僑郷との間の安定的なチャンネル構築體制への支援と